

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（建築工学研究科）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	建築士講座（計画）		英文名	Architect Course Planning 1-1					
担当者	上西 徹		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義	
開講期	前期	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：	時間（回数：	回）	授業時数	60 時間	
教材 教具	学科受験テキスト 学科Ⅰ（日建学院） 学科Ⅰ 問題・解説集（日建学院）								
担当者の実務 経験	建設会社にて住宅、一般建築の設計、工事監理								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 4 - 7 月授業：二級建築士 学科対策における学科Ⅰ（建築計画）分野の過去問題演習を行うとともに 要点の解説を受け、合格レベルに達することを目的とする。 9 月授業：二級建築士製図対策における課題演習を行い、合格レベルに達することを目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	建築史 《学科対策》			1					
2	計画原論 1	気候・空気		2					
3	同 2	熱・光		3					
4	同 3	音・色彩		4					
5	計画各論 1	住宅・商業建築		5					
6	同 2	商業建築・公共建築		6					
7	同 3	各部計画・建築生産		7					
8	同 4	都市計画・建築史		8					
9	建築設備 1	空気調和設備		9					
10	同 2	給水排水衛生設備・		10					
11	同 3	電気・照明設備・消火設備		11					
12	総合	＋ 確認テスト		12					
13	製図課題 演習 1	《製図対策》		13					
14	製図課題 演習 2			14					
15	製図課題 演習 3			15					
授業方法 （授業の進め方）		テキストの解説とともに問題演習を行う。また、質問対応やアドバイスなど、個別の理解度に合わせた個人指導を重視する。							
到達目標		二級建築士の学科試験対策として要点の徹底理解をし、本試験において合格レベルの実力へ到達することができること。							
成績評価の方法と基準		・随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上 4 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		自宅学習による授業ごとの復習を行う。							
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。							

科目名	建築士講座（法規）		英文名	Architect Course Law					1-2	
担当者	森崎 祐太郎		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義		
開講期	前期	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：時間（回数：回）			授業時数	60 時間		
教材 教具	学科受験テキスト 学科Ⅱ（日建学院） 学科Ⅱ問題・解説集（日建学院）									
担当者の実務 経験	建設会社にて住宅、一般建築の設計、工事監理									
【学修内容】 科目のねらい（目的） 4 - 7 月授業：二級建築士 学科対策における学科Ⅱ（建築法規）分野の過去問題演習を行うとともに 要点の解説を受け、合格レベルに達することを目的とする。 9 月授業：二級建築士製図対策における課題演習を行い、合格レベルに達することを目的とする。										
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）					
1	建築基準法：総則 1			《学科対策》		1				
2	同：総則 2					2				
3	同：一般構造等					3				
4	同：構造強度					4				
5	同：防火関係 1					5				
6	同：防火関係 2					6				
7	同：防火関係 3					7				
8	同：都市計画区域等の制限 1					8				
9	同：都市計画区域等の制限 2					9				
10	同：雑則等					10				
11	その他の関係法規					11				
12	総合			＋ 確認テスト		12				
13	製図課題 演習 1			《製図対策》		13				
14	製図課題 演習 2					14				
15	製図課題 演習 3					15				
授業方法 （授業の進め方）		テキストの解説とともに問題演習を行う。また、質問対応やアドバイスなど、個別の理解度に合わせた個人指導を重視する。								
到達目標		二級建築士の学科試験対策として要点の徹底理解をし、本試験において合格レベルの実力へ到達することができること。								
成績評価の 方法と基準		・随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上 4 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。								
授業時間以外に 必要な学修		自宅学習による授業ごとの復習を行う。								
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。								

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（建築工学研究科）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	建築士講座（構造）		英文名	Architect Course Structure					1-3	
担当者	岡部 大吾		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義		
開講期	前期	前期：4 時間（回数：15 回）		後期： 時間（回数： 回）		授業時数		60 時間		
教材 教具	学科受験テキスト 学科Ⅲ(日建学院) 学科Ⅲ問題・解説集(日建学院)									
担当者の実務 経験	建築設計事務所にて一般建築(公共、商業、福祉施設、集合住宅)の設計、工事監理／住宅の建物調査									
【学修内容】 科目のねらい（目的） 4 - 7 月授業：二級建築士 学科対策における学科Ⅲ（建築構造）分野の過去問題演習を行うとともに 要点の解説を受け、合格するレベルに達することを目的とする。 9 月授業：二級建築士製図対策における課題演習を行い、合格するレベルに達することを目的とする。										
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）						
1	構造力学 1		《学科対策》		1					
2	構造力学 2				2					
3	構造力学 3				3					
4	構造設計 1				4					
5	構造設計 2				5					
6	各種構造 1				6					
7	各種構造 2				7					
8	各種構造 3				8					
9	建築材料 1				9					
10	建築材料 2				10					
11	建築材料 3				11					
12	総合		+ 確認テスト		12					
13	製図課題 演習 1		《製図対策》		13					
14	製図課題 演習 2				14					
15	製図課題 演習 3				15					
授業方法 (授業の進め方)			テキストの解説とともに問題演習を行う。また、質問対応やアドバイスなど、個別の理解度に合わせた個人指導を重視する。							
到達目標			二級建築士の学科試験対策として要点の徹底理解をし、本試験において合格レベルの実力へ到達することができること。							
成績評価の方法と基準			・ 随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・ 出席点：10％ ・ 授業態度点：10％ 以上 4 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修			自宅学習による授業ごとの復習を行う。							
履修に当たっての留意点			授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。							

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (建築工学研究科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	建築士講座（施工）	英文名	Architect Course Construction					1-4
担当者	秋山 紘	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義	
開講期	前期	前期：4 時間（回数：15 回）		後期： 時間（回数： 回）		授業時数	60 時間	
教材 教具	学科受験テキスト 学科Ⅳ（日建学院） 学科Ⅳ問題・解説集（日建学院）							
担当者の 実務 経験	建築設計事務所にて一般建築の設計、工事監理							

【学修内容】科目のねらい（目的）

4 - 7 月授業：二級建築士 学科対策における学科Ⅳ（建築施工）分野の過去問題演習を行うとともに
要点の解説により、合格することができるレベルに達することを目的とする。

9月授業：二級建築士製図対策における課題演習を行い、合格するレベルに達することを目的とする。

【授業計画】		コマシラバス（前 期）	コマシラバス（後 期）	
1	施工管理 1	《学科対策》	1	
2	施工管理 2		2	
3	各部工事：1		3	
4	各部工事：2		4	
5	各部工事：3		5	
6	各部工事：4		6	
7	各部工事：5		7	
8	各部工事：6		8	
9	各部工事：7		9	
10	用語・機械・建築積算		10	
11	測量・工事契約		11	
12	総合	＋ 確認テスト	12	
13	製図課題 演習 1	《製図対策》	13	
14	製図課題 演習 2		14	
15	製図課題 演習 3		15	
授業方法 (授業の進め方)		テキストの解説とともに問題演習を行う。また、質問対応やアドバイスなど、個別の理解度に合わせた個人指導を重視する。		
到達目標		二級建築士の学科試験対策として要点の徹底理解をし、本試験において合格レベルの実力へ到達することができること。		
成績評価の方法と基準		・随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。		
授業時間以外に必要な学修		自宅学習による授業ごとの復習を行う。		
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。		

学科名 (建築工学研究科)

科目名	建築士実践講座	英文名	Architect Practice Course					1-5
担当者	森崎 祐太郎	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義	
開講期	前期	前期：8 時間（回数：15 回）	後期：	時間（回数：	回）	授業時数	120 時間	
教材 教具	オリジナル問題プリント							
担当者の実務 経験	建設会社にて住宅、一般建築の設計、工事監理							
【学修内容】 科目のねらい（目的） 4－7 月授業：二級建築士の学科対策として模擬問題演習を行う。 9 月授業：二級建築士の製図対策として製図課題の模擬問題演習を行う。								
【授業計画】			コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）		
1	二級建築士	学科対策模擬問題①	1					
2	二級建築士	学科対策模擬問題②	2					
3	二級建築士	学科対策模擬問題③	3					
4	二級建築士	学科対策模擬問題④	4					
5	二級建築士	学科対策模擬問題⑤	5					
6	二級建築士	学科対策模擬問題⑥	6					
7	二級建築士	学科対策模擬問題⑦	7					
8	二級建築士	学科対策模擬問題⑧	8					
9	二級建築士	学科対策模擬問題⑨	9					
10	二級建築士	学科対策模擬問題⑩	10					
11	二級建築士	学科対策模擬問題⑪	11					
12	二級建築士	製図模擬課題①	12					
13	二級建築士	製図模擬課題②	13					
14	二級建築士	製図模擬課題③	14					
15	二級建築士	製図模擬課題④	15					
授業方法 （授業の進め方）		テキストの解説とともに問題演習を行う。また、質問対応やアドバイスなど、個別の理解度に合わせた個人指導を重視する。						
到達目標		二級建築士の学科試験対策として要点の徹底理解をし、本試験において合格レベルの実力へ到達することができること。						
成績評価の方法と基準		・随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上 4 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		自宅学習による授業ごとの復習を行う。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。						

岡山科学技術専門学校

学科名 (建築工学研究科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	建築士特訓講座	英文名	Architect Course training					1-6
担当者	構造：岡部 大吾 施工：秋山 紘 計画：上西 徹 法規（計画）：森崎祐太郎	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義	
開講期	前期	前期：8 時間（回数：15 回）	後期：	時間（回数：	回）	授業時数	120 時間	
教材 教具	二級建築士学科受験テキスト（日建学院）、二級建築士設計製図テキスト							
担当者の 実務 経験	秋山 紘：建築設計事務所にて一般建築の設計、工事監理 岡部 大吾：建築設計事務所にて一般建築（公共、商業、福祉施設、集合住宅）の設計、工事監理／住宅の建物調査 森崎祐太郎：建設会社にて住宅、一般建築の設計、工事監理 上西 徹：建築設計事務所にて住宅、一般建築の設計、工事監理							
【学修内容】科目のねらい（目的） 3 - 4 月授業：二級建築士として学科Ⅰ（建築計画）、学科Ⅱ（建築法規）、学科Ⅲ（建築構造）、学科Ⅳ（建築施工）の4分野について徹底理解をすることを目的とする。 7 - 8 月授業：二級建築士の製図対策として今年度の課題に直接対応した課題で実践的な能力を養うことを目的とする。								
【授業計画】			コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）		
1	学科試験対策①		《学科試験対策》		1			
2	学科試験対策②				2			
3	学科試験対策③				3			
4	製図試験対策課題①		《製図試験対策》		4			
5	製図試験対策課題②				5			
6	製図試験対策課題③				6			
7	製図試験対策課題④				7			
8	製図試験対策課題⑤				8			
9	製図試験対策課題⑥				9			
10	製図試験対策課題⑦				10			
11	製図試験対策課題⑧				11			
12	製図試験対策課題⑨				12			
13	製図試験対策課題⑩				13			
14	製図試験対策課題⑪				14			
15	製図試験対策課題⑫				15			
授業方法 （授業の進め方）		テキストと問題集で解説及び演習し、確認テストで要点を確認することで理解を深める。						
到達目標		二級建築士の学科試験対策として要点の徹底理解をし、本試験において合格レベルの実力へ到達することができること。						
成績評価の 方法と基準		・随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外 に必要な学修		自宅学習による授業ごとの復習を行う。						
履修に当たっ ての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (建築工学研究科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	修了講座	英文名	Graduation Course					1-7
担当者	構造：岡部 大吾 施工：秋山 紘 環境設備・法規：森崎祐太郎 計画：上西 徹	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義	
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期：10 時間（回数：15 回）			授業時数	150 時間	
教材 教具	一級建築士 学科 新体系テキスト【計画、環境・設備、法規、構造、施工】（TAC）							
担当者の実務経験	秋山 紘：建築設計事務所にて一般建築の設計、工事監理 岡部 大吾：建築設計事務所にて一般建築（公共、商業、福祉施設、集合住宅）の設計、工事監理／住宅の建物調査 森崎祐太郎：建設会社にて住宅、一般建築の設計、工事監理 上西 徹：建築設計事務所にて住宅、一般建築の設計、工事監理							
【学修内容】科目のねらい（目的） 建築的視野を広めるために一級建築士試験科目を学ぶと同時に、二級建築士試験対策で身に付けた知識をより確実にし、さらに高める。								
【授業計画】			コマシラバス（前 期）					
1			1	一級建築士 学科試験対策①				
2			2	一級建築士 学科試験対策②				
3			3	一級建築士 学科試験対策③				
4			4	一級建築士 学科試験対策④				
5			5	一級建築士 学科試験対策⑤				
6			6	一級建築士 学科試験対策⑥				
7			7	一級建築士 学科試験対策⑦				
8			8	復習テスト				
9			9	一級建築士 学科試験対策⑧				
10			10	一級建築士 学科試験対策⑨				
11			11	一級建築士 学科試験対策⑩				
12			12	一級建築士 学科試験対策⑪				
13			13	一級建築士 学科試験対策⑫				
14			14	一級建築士 学科試験対策⑬				
15			15	復習テスト				
授業方法 （授業の進め方）			一級建築士試験に特化した部分を中心にテキストに基づいて学習し、その補完として問題に当たる。					
到達目標			基本的な一級建築士試験問題は確実に解くことができるようにし、早期に本試験を受験できる自信をつける。					
成績評価の方法と基準			・随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。					
授業時間以外に必要な学修			自宅学習による授業ごとの復習を行う。					
履修に当たっての留意点			授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。					

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (建築工学研究科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	建築士講座（設計製図）	英文名	Architect Course Drawing					1-8
担当者	本徳 彰士 森崎 祐太郎	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・実習	
開講期	前期	前期：8時間（回数：15回）	後期：	時間（回数：	回）	授業時数	120時間	
教材 教具	二級建築士 製図試験対策テキスト							
担当者の実務経験	本徳 彰士：建築設計事務所にて住宅、一般建築の設計、工事監理／建築設計事務所自営にて住宅の設計 森崎祐太郎：建設会社にて住宅、一般建築の設計、工事監理							
【学修内容】 科目のねらい（目的） 二級建築士 学科対策における設計製図分野の課題に取組み、また要点解説を受け、合格することができるレベルに達することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）					
1	製図対策 基礎 1	1						
2	製図対策 基礎 2	2						
3	製造対策 基礎 3	3						
4	プランニング演習 1	4						
5	プランニング演習 2	5						
6	プランニング演習 3	6						
7	プランニング演習 4	7						
8	作図演習 1	8						
9	作図演習 2	9						
10	作図演習 3	10						
11	作図演習 4	11						
12	製図課題 演習 1	12						
13	製図課題 演習 2	13						
14	製図課題 演習 3	14						
15	製図課題 演習 4	15						
授業方法 （授業の進め方）	テキストの解説とともに問題演習を行う。また、質問対応やアドバイスなど、個別の理解度に合わせた個人指導を重視する。							
到達目標	二級建築士の製図試験対策として徹底理解をし、本試験において合格レベルの実力へ到達することができること。							
成績評価の方法と基準	・随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	自宅学習による授業ごとの復習を行う。							
履修に当たっての留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。							

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (建築工学研究科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	総合研究		英文名	Research					1-9	
担当者	岡部 大吾		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・実習		
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）		後期： 2 時間（回数：15 回）			授業時数	30 時間		
教材 教具	—									
担当者の実務経験	建築設計事務所にて住宅、一般建築の設計及び工事監理									
【学修内容】 科目のねらい（目的） 設定した複合施設や都市開発、空間デザインなど各自の研究テーマに基づき作品制作を行う過程で、CAD や CG 技術を駆使できるより高度な技術を習得する。										
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）						
1				1	CAD・CG演習 1					
2				2	CAD・CG演習 2					
3				3	CAD・CG演習 3					
4				4	CAD・CG演習 4					
5				5	CAD・CG演習 5					
6				6	修了制作(ドローイング)					
7				7	修了制作(ドローイング)					
8				8	修了制作(モデリング)					
9				9	修了制作(モデリング)					
10				10	修了制作(モデリング)					
11				11	修了制作課題(CG)					
12				12	修了制作課題(CG)					
13				13	修了制作課題(CG)					
14				14	修了制作課題(CG)					
15				15	修了制作課題(CG)					
授業方法 (授業の進め方)		個別のテーマ設定から作品の完成まで、個人指導を重視して進める。								
到達目標		建築設計の魅力的な表現能力を習得することができること。								
成績評価の方法と基準		・課題に対する取り組み姿勢：80% ・出席点：10% ・授業態度点：10% 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。								
授業時間以外に必要な学修		自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。								
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。								

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	修了研究		英文名	Graduation Project					1-10	
担当者	上西 徹		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・実習		
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）		後期： 6時間（回数：15 回）			授業時数	90 時間		
教材 教具	—									
担当者の実務経験	上西 徹：建築設計事務所にて住宅、一般建築の設計、工事監理									
【学修内容】 科目のねらい（目的） 複合施設や都市開発、空間デザインなど各自の研究テーマを設定して、作品制作を行うことを目的とする。										
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）						
1				1	テーマ設定 1		＋作品研究			
2				2	テーマ設定 2		＋作品研究			
3				3	エスキス 1		＋スタディモデル制作			
4				4	エスキス 2		＋スタディモデル制作			
5				5	エスキス 2		＋スタディモデル制作			
6				6	プランニング 1					
7				7	プランニング 2					
8				8	プランニング 3					
9				9	中間提出					
10				10	ドローイング 1					
11				11	ドローイング 2					
12				12	ドローイング 3					
13				13	模型・CG 制作 1					
14				14	模型・CG 制作 2					
15				15	模型・CG 制作 3		＋		作品提出	
授業方法 (授業の進め方)		個別のテーマ設定から作品の完成まで、個人指導を重視して進める。								
到達目標		建築設計の魅力的な表現能力を習得することができること。								
成績評価の方法と基準		・課題に対する取組み姿勢：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。								
授業時間以外に必要な学修		自宅学習として調査・研究などを含めた創作活動を継続的に行う。								
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。								

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (建築工学研究科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	建築積算	英文名	Estimation in Architecture					1-11
担当者	秋山 紘	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義	
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期：2 時間（回数：15 回）				授業時数	30 時間
教材 教具	積算協会の PCM シリーズⅡ 新☆建築積算士ガイドブック							
担当者の実務経験	建築設計事務所にて住宅、一般建築の設計および工事監理							
【学修内容】科目のねらい（目的） 建築物を完成させるためには、総工事費用がいくらになるのかを予め算出しておく必要がある。建築積算士補で学んだことをベースに数量の拾い出しや積算業務を学習する。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）					
1			1	建築積算とは				
2			2	建設産業について				
3			3	工事の発注・契約				
4			4	設計図書				
5			5	工事費の構成				
6			6	建築積算業務の実際				
7			7	復習テスト				
8			8	建築数量積算基準				
9			9	内訳書標準書式				
10			10	市場価格				
11			11	チェックおよびデータ分析				
12			12	建築積算と施工技術				
13			13	LCC（ライフサイクルコスト）				
14			14	VE（バリューエンジニアリング）				
15			15	復習テスト				
授業方法 （授業の進め方）		テキストと過去問題を中心に、図面を理解させ数量算出をし、また積算業務における様々なことを自分の言葉で説明できるようにする。						
到達目標		鉄筋コンクリート造及び鉄骨造の躯体や建具、内装仕上げの数量を正確に算出することができる。						
成績評価の方法と基準		・随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		過去問題の復習。						
履修に当たっての留意点		材料の拾い出しや単価計算では、緻密さと慎重さが求められる。また、資格試験では短文記述試験問題があり、自らの言葉で内容を説明できる文章能力が必要。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (建築工学研究科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	総合ゼミ		英文名	Business Skills					
担当者			実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	一般科目・演習	
開講期	通年	前期：2時間（回数：15回）		後期：時間（回数：回）		授業時数		30時間	
教材 教具	— R07 休講								
担当者の実務 経験									
【学修内容】 ・ポートフォリオの作成 ・社会人資質の実践的な展開を行う									
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）					
1	ポートフォリオの作成1			1					
2	ポートフォリオの作成2			2					
3	ポートフォリオの作成3			3					
4	ポートフォリオの作成4			4					
5	ポートフォリオの作成5			5					
6	ビジネスマナー1(あいさつ)			6					
7	ビジネスマナー2(あいさつ)			7					
8	ビジネスマナー3(敬語)			8					
9	ビジネスマナー4(敬語)			9					
10	ビジネスマナー5(ビジネス会話)			10					
11	ビジネスマナー6(ビジネス会話)			11					
12	ビジネスマナー7(電話掛け)			12					
13	ビジネスマナー8(電話掛け)			13					
14	ビジネスマナー9(報告・連絡・相談について)			14					
15	ビジネスマナー10(報告・連絡・相談について)			15					
授業方法 (授業の進め方)		これまでの作品を時系列でファイル化することで自身の軌跡を形に表し、修了制作作品の創作へ向けての土台づくりを行う。一方で、社会人へ向けての基本マナーを身に付ける。							
到達目標		就職活動に効果的に役立てる。							
成績評価の方法と基準		・随時行う小テスト及び復習テスト：80% ・出席点：10% ・授業態度点：10% 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。							
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	建築 CG 設計		英文名	CG Building Design					
担当者			実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・実習	
開講期	通年	前期：2 時間（回数：15 回）		後期： 2 時間（回数：15 回）			授業時数	60 時間	
教材 教具	－ R07 休講								
担当者の実務経験									
【学修内容】 科目のねらい（目的） Photoshop や Shade による 3D の建築や空間表現を習得し、作品としての表現能力を高めることができるようになることを目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	課題①			1	課題③（修了制作対応）				
2	制作			2	制作作業 1				
3	制作			3	制作作業 2				
4	制作			4	制作作業 3				
5	制作			5	制作作業 4				
6	制作			6	制作作業 5				
7	課題提出			7	制作作業 6				
8	課題②			8	制作作業 7 + 中間提出				
9	制作			9	制作作業 8				
10	制作			10	制作作業 9				
11	制作			11	制作作業 10				
12	制作 + 中間提出			12	制作作業 11				
13	制作			13	制作作業 12				
14	制作			14	制作作業 13				
15	課題提出			15	課題提出				
授業方法 （授業の進め方）		課題制作を通してスキルアップを図る。 個人指導によるチェックやアドバイスを重視する。							
到達目標		修了制作に活かせる 3D 表現を習得することができること。							
成績評価の方法と基準		・随時行う小テスト及び復習テスト：80％ ・出席点：10％ ・授業態度点：10％ 以上 4 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		自宅学習による授業ごとの復習を行う。							
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうか等の平素の行動を評価するものである。							